

秋の火災予防運動

11月9日から11月15日

全国統一防火標語

急ぐ日も 足止め 火を止め 準備よし



女性防火クラブだより

発行所：岐阜市女性防火クラブ運営協議会事務局
〒500-8612 岐阜市錦江中町2-9 岐阜市消防本部予防課内
☎058-262-7163
令和7年11月1日号
(通算第53号)



運営協議会の森会長が柴橋市長に受賞報告を行いました。

安全功労者総務大臣表彰を受賞

七月十一日、岐阜市女性防火クラブ運営協議会が「令和七年安全功労者総務大臣表彰」を受賞しました。
永年「家庭の防火」を目的に、地域に根付いた防火・防災活動を実施し、安心安全なまちづくりに多大な貢献をした功績が評価され、受賞となりました。

十一月九日から十一月十五日までの間、全国一斉に秋の火災予防運動が行われます。この運動は、火災が発生しやすい季節を迎えるにあたり、火災予防思想の一層の普及を図るなどを目的に、毎年実施されるものです。
今年度の統一防火標語は『急ぐ日も 足止め 火を止め 準備よし』です。

今年の火災概況

一月一日から六月三十日までの上半期、岐阜市内で発生した火災は五十二件で、前年の同時期と比較すると四件減少となっています。

出火原因は、「たき火」、「こんろ」が同数で最も多く九件、続いて「電気関係」が六件でした。

火災による死者は一人、負傷者は七人で、前年の同時期と比較すると死者が一人増加、負傷者は増減なしとなりました。

最も多く発生した火災の種別は、建物火災で、三十一件発生しています。

火災による損害額は約三千七百七十八万円で、前年の同時期と比較すると百十万円減少しました。

一件でも火災を減らすため、口ずさもう防火標語！

今、備えよう！電気火災対策！

過去の大地震では建物の倒壊だけでなく、火災の被害が多く発生しています。地震による火災の過半数は、電気が原因です。

電気火災対策には

感震ブレーカーが効果的！

感震ブレーカーは震度五強相当の揺れを感じて、電気を自動で遮断します。

種類は四つ

○分電盤タイプ（内蔵型）揺れを感知するとブザー音がなり、一定時間の後電源が遮断されます。電気工事が必要です。

○分電盤タイプ（後付型）既設の分電盤に後から設置するもの。電気工事を必要とし、取付ができない機器もあるので、設置前には確認が必要です。

○コンセントタイプ 差込型と埋込型があり、揺れを感知するとコンセントに接続された家電のみ電気を遮断します。

○簡易タイプ バネや重りにより物理的にブレーカーのスイッチを落とす仕組みのもの。ホームセンターなどで購入するところとが、比較的簡単に取り付けが可能です。



感震ブレーカー情報
(岐阜市ホームページ)

各地区の女性防火クラブから

「防災訓練に参加して」

芥見女性防火クラブ

会長 小川 和枝

芥見女性防火クラブの活動の大きなものの一つに防災訓練があります。毎年六月と十月（こちらは市民運動会と同日に行われます）の年二回行いますが、六月について記してみたいと思います。

六月一日（日）の朝、八時四十分に関各地で放送がかけられ、芥見小学校、諏訪山グラウンド、龍雲寺、藍川中学校の計四か所の避難場所それぞれ集合して始まりました。

私たち防火クラブのメンバーはアルファ米の炊き出しを行うため、八時に集合し準備を行いました。炊き出しは中学校を除く三か所で行いましたが、私は小学校担当でしたので、小学校の様子を報告いたします。

お米や具材にお湯または水を入れてかき混ぜるのですが、お湯だと十五分、水だと六十分かかるため、一週間前に練習し、当日は水を使用しました。メンバー八人に中学生ボランティア九人が加わり、出来上がった五百人分の山

菜おこわをパック詰めし、水とともに参加者に配布しました。

当日はお天気も良く、それでいて暑すぎることもなく、訓練日和でしたが、風が強い日でした。空のバックが飛ばされたり、放水訓練の水が炊き出しのテントの方までかかってきたりなど、小さなアクシデントはありましたが、それ以外はスムーズに行えたと思います。私たちは炊き出しに集中

していて、他の訓練に参加したり、見学したりする余裕はありませんでした。他の参加者の方はそれぞれ訓練に参加し、有意義なひとときを過ごせたようです。

山菜おこわの出来上がりも良かったようで、水で混ぜただけとは思えないと高評価をいただきました。



「木田女性防火クラブの活動」

木田女性防火クラブ

会長 松尾 早苗

木田女性防火クラブは他のクラブより少し早い昭和三十六年に結成されました。木田自治会連合会に所属する「木田女性防火クラブ」として消防団や各種団体と連携しながら十一名のクラブ役員で活動を行っています。

活動内容としては、指導員講習会に指導者の立場のクラブ員が参加して、クラブに知識を持ち帰り、クラブ員に対して研修する事でクラブ全体の防火、防災力の向上を図っています。

また、日赤奉仕団と合同で、人形を使つての心肺蘇生法やAEDの使い方を消防署の方に教えていただいています。

毎年、木田地域の防災訓練にも

参加しています。高齢者の方々が迅速に避難出来るように避難者の誘導訓練や避難所の安全確認及び開設訓練や水防団と消防団と連携しながら大規模災害団員連携訓練を行っています。

近年では、集中豪雨や土砂災害、山火事などの自然災害による被害が毎年のように全国各地で発生しています。

災害はいつ起こるかわかりません。被害を軽減させるには、一人ひとりが常に防火・防災を心がける必要があります。

今後自治会連合会や各手団体と連携しながら「自助」「共助」ができるように様々な活動を実施していきたいと思ひます。

